

高松市公の施設指定管理者導入施設に対する評価

評価対象期間：令和6年4月1日～令和7年3月31日

施設名	純愛の聖地庵治・観光交流館		
指定管理者	JR四国不動産開発株式会社	施設所管課等	観光交流課
指定期間	令和4年7月1日から令和9年3月31日(5年間)	公募・非公募の別	公募
所在地	高松市庵治町5824番地4	業務の概要	施設の維持管理・運営業務 ・写真館(管理棟) カフェ コーナー ・物産館(観光案内コーナー、映画写真展示コーナー) ・企画展示コーナー ・駐車場
施設の概要	【施設】 構造:木造2階建及び木造平家建一部中2階 【職員の状況】 館長1人(兼任) アルバイト4人 【開館時間】 観光交流館 9:00～17:00(最終入館16:30) カフェ写真館のコーヒー 10:00～16:00(LO 15:30) 休館日:交流館・カフェとも毎週火曜日		

	項目名	令和6年度	令和5年度	項目名	令和6年度	令和5年度
利用状況等	利用者数	2,082 人	3,771 人			
収支状況等	指定管理料	4,879 千円	4,879 千円	支出実績(総額)	7,292 千円	6,511 千円
	収入実績(総額)	6,234 千円	7,337 千円		千円	千円
	(うち事業収入、雑収入)	1,355 千円	2,458 千円		千円	千円

評価基準	評 価 項 目	指定管理者自己評価コメント	所管課等評価
1 基本事項	①法令上必要な知識等、安全対策、危機管理	関連法令等を遵守し、純愛の聖地庵治・観光交流館のコンセプトに沿った施設運営及び維持管理を行った。 また、食品衛生等については保健所の指導要綱に加えJRグループ内での研修も活用し、より安全性を高めるべくカフェスタッフへ水平展開した。 個人情報の保護や情報公開等については、正確な情報発信とホームページなどに利用される写真に十分留意するとともに、お客様がSNSの情報発信のため、店内で撮影される場合には、他のお客様の映り込み等がないように周知を行っている。 環境への配慮としては、主にカフェで発生する食材廃棄を減らすべく徹底を行った。	B
	②-1個人情報の保護・情報公開		
	②-2環境への配慮		
2 住民の平等な利用確保	①管理運営、施設事業との関連性	管理運営に当たっては平等で開かれた利用に留意し、観光客や周辺住民の方々々に気軽に安心してご利用いただけることを目指した。 また施設の利用にあたっては平等利用を基本に、特定の個人や団体の独占とならないよう注意している。	B
	②平等な利用の確保		
3 施設の効用の最大限の発揮	①利用促進対策	利用促進については、施設の魅力向上を目的に自主的な企画事業に力を入れた。 PRと情報発信については、当館ホームページを活用し「庵治花火大会」や「高松ファミリー＆クォーターマラソン in AJI」の告知を行い、地域の魅力発信に務めると共に、開催当日は観光交流館として積極的な営業活動を展開した。 また、地域との密着型イベントとして「野菜マルシェ」を3か月ごと、年4回実施している。 さらに、JR四国グループのグループ力を活かした自主企画の実施に向け現在計画中である。 関係各所や地域との連携については、イベント主催者への業務協力や、消防署の査察対応にも積極的に対応した。 サービス向上や相談・苦情の対応として、営業時間帯においては弊社の本社が対応し、休日夜間については民間コールセンターへの電話転送により、24時間の受付対応を可能としている。	C
	②広報・PR対策		
	③企画事業・自主事業		
	④市・関係団体・地域等との連携		
	⑤サービス向上の取組		
	⑥相談・苦情への対応		
4 管理を安定して行うための人員及び財政基盤の確保	①職員確保計画等	従業員については、近隣地域からの採用を基本とし、地域雇用に貢献できるように務めると共に、就業にあたっては各々の働きやすい環境構築に努力しているところであるが、応募不足に陥っている。 教育・研修については、部外及びJRグループ内において定期的に実施される、食品衛生講習等の内容を水平展開し、各々が理解と遂行可能なように個人の知識向上に務めている。 また、健全な施設運営のため、各種規則類及びマニュアルを遵守し、その実行に務めている。 損害保険については施設保全のための適切な保険に加入している他、雇用者として従業員に労災保険及び、各種適切な保険加入の手続きを行っている。 収支計画等については、更なる施設の利用者増を目的に自主企画等の計画作成に務める。	B
	②教育・研修		
	③就業規則等の遵守		
	④施設運営の健全性の確保（経営状況の確認を含む）		
	⑤損害保険等		
	⑥収支計画と執行管理		
5 管理に係る経費の縮減	①収入の確保・適正な人件費	景気低迷や物価高騰、いまだに続くコロナ等の影響で、来館者及び売り上げは前年度より大幅に減少している。 そのような厳しい環境の中において、適正な人員配置や鉄道企画展など自主企画等による収入の確保及び可能な範囲内での施設の保守管理を計画すると共に、経費削減策等を見直すなど経営の効率化を目指す。 また、観光交流館のイメージを大切に、それにそぐう店内装飾等の充実を計画中する。	B
	②運営経費の節減対策・コミュニティビジネスの視点		
	③経営の効率化		
	④合理的な会計制度		

総合評価コメント		総合評価
<p>純愛の聖地庵治・観光交流館は、映画「世界の中心で、愛をさけぶ」のロケセット「雨平写真館」を復元したカフェがあり、映画公開から20年以上経過した今でも、映画ファンや地元住民が訪れる施設である。またカフェの外には展示棟として、作品の展示や休憩ができるスペースがあり、マルシェなどイベントの開催場所として使用されている。</p> <p>施設管理に関しては、清掃が行き届いていること、食品衛生を徹底していることが見受けられる。施設の利用方法としても、マルシェや写真展など、地元住民が集う場所・機会の提供に努めている。雨平写真館のカフェには、国内外からの映画ファンの来客や、地元住民がスタッフとの会話を楽しみに来店していることが店内の様子やアンケート結果から分かる。一方、年々来客数が減少していることから、客足を増加させる工夫が今後とも必要になってくる。ホームページの更新頻度や多様なSNSの運用など、広報活動をより積極的にすることが望ましい。</p>		B